

日本聖公会

大阪教区報



大阪聖ヨハネ教会



堺聖テモテ教会



庄内伝道所



主教座聖堂 川口基督教会

日本聖公会
大阪教区総務局

〒545-0053

大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8

TEL 06-6621-2179

FAX 06-6621-3097

osakakoho2022@gmail.com

発行責任者

総務局長 司祭 金山将司

+++++ 第527号 2025年10月20日発行 +++++

「向こう岸へ渡ろう」

聖職候補生 ヴェロニカ

こもだ くみこ
薦田 久美子

主の平和がありますように

4月に教区に派遣されてから約6か月が経ちました。特に柳司祭と山野上司祭にご指導をいただきながら、時にはお叱りを受け、まれにお褒めの言葉をいただき、度々自分のコミュニケーション能力の無さに落ち込みながら過ごしています。

そんな日々の中で、毎日心に浮かぶのが、タイトルの御言葉です。

言うまでもなくこれはマルコ福音書4…35に記されているイエスさまの御言葉で、群衆に多くの譬え話を語られた後に弟子たちにおかけになった言葉ですが、私にとっては聖職志願を決心させてくださった御言葉の一つでもあります。

この御言葉は、文字通りに取ればイエスさまが弟子たち

に舟でガリラヤ湖の対岸へ行くこと、とおっしゃった。対岸に行きつくまでに起こった激しい突風をイエスさまがお叱りになり、湖は風になった。



イエスさまは弟子たちを「なぜ怖がるのか。まだ信仰がないのか」とお叱りになった」という場面の方が取り上げられる場合が多いように感じます。

けれども私にはこの短い御言葉の方が、イエスさまが「今

の自分から新しく次のステップに行く決めたんだね？ だったら怖れずに実行しなさい。私が共にいる。」と励ましてくださっているように感じて、より心に響くのです。「渡れ」ではなく「渡ろう」とおっしゃってくださいているのですから、間違ひなく一緒にいてくださいます。そして、そのイエスさまによって「私は新しくされる」という喜びと勇気が湧いてきます。

神学校に在学中は様々な学びを提供していただき、自分なりに一生懸命学んで卒業したつもりでした。けれども実際に働出すと、学んだことが通用しないことが度々あります。

ある程度予測はしていたのですが、思いもしない状況で思いもしない反応または結果になり、茫然とする時があります。そのような時は「また一つ新しいことを学んだ！」とポジティブに言えれば良いのですがそういう訳にはいか

ず、結構引きずって落ち込み、特に何度もこの御言葉を心の中で繰り返し心を落ち着かせ祈るようにしています。

ことに牧師館に住まわせていただいている大阪聖ヨハネ教会は派遣されるまで全く接点がなかった教会で、当初は何をするにも非常に緊張しました。おそらく教会員のみなさんも同じ思いだったと思います。また勤務の都合上、ヨハネ教会の主日礼拝には月に2回しか出席できませんし、両日とも礼拝後は会議があり、なかなかみなさんとゆっくり・じっくりお話しする機会がありません。けれども焦る気持ちの中で皆さんに支えられ、この御言葉を糧にしなから、やっと少しずつ皆さんと共に歩み始められたのではないかと思います。遅々とした歩みかも知れませんが、これからもこの御言葉によって新しくされ、公会のため、そして悲しみや苦悩の中にある方々のために働かせていただきたいと思います。

(大阪聖ヨハネ教会・

川口基督教会勤務)

おめでとう!
9月13日按手

ステラ・ミシエル 大倉有紀 執事按手式

おおくら ゆき

去る、9月13日ステラ・ミシエル大倉有紀新執事の執事按手式が大阪教区主教座聖堂川口基督教会にて、行われました。

小林聡^{こばやしさとし}主教の司式、日本キリスト教団京都教区洛南教会の井上勇一^{いのうえゆういち}牧師様に説教いただき、教派を超えて祝福され、新たに公会の執事が按手されました。

出席人数は〇人、当日献金は10万7575円で、献金は大阪聖三一教会のためにお献げされました。

式の後、祝会が川口基督教会3階で開かれ、出身教会である川口基督教会、また新たに牧師補となる高槻聖マリヤ教会のおもてなしのもと、皆で喜びを分かち合いました。

以降、大倉執事のご挨拶と高槻聖マリヤ教会の喜びのメッセージです。おめでとうございます。

(副式典長

司祭 金山 将司)

「按手を受けて」

ステラ・ミシエル

大倉 有紀

9月13日(土)に無事按手を受けて、聖職として改めて大阪教区の輪の中に加えていただきました。皆様より多くのお祈りをいただきましたことを、心より感謝申し上げます。

こんなに嬉しい、幸せな式は初めてでした。前日の晩は緊張して眠れず当日も食事がほとんど取れないまま式に臨んだので、式の最中は無事に終わることばかりを考えていました。が、派遣の唱和が終わった瞬間に気持ちが晴れるような思いがしました。そして退堂の時にやっと、嬉しい、幸せな気持ちが沸いてきました。私は、29歳の時に日本基督教団で牧師になるための按手を受けました。その後、聖公会関係学校に就職したことをきっかけにして教籍を教団に

お返しし、聖公会に転会しました。再び導かれ聖公会大阪教区で聖職として按手を受けることが叶いましたが、一度目の按手がどのような意味を持つのかということについて、私はずっと悩んでいました。

た。そして今まで抱えていた悩みが消えていき、過去も含めて、教会に仕える自分の人生を肯定してあげることができるようになりました。

私は生涯、聖公会に仕えるつもりで聖職を志しました。これからも困難なことや悩むことがあると思いますが、自分の信仰歴と家族に支えてもらい、一歩ずつ歩んでいこうと思っています。私を聖公会に導いてくれた聖アンデレ教会の方々、母教会の川口基督教会の方々、私を聖職候補生として迎えてくれた高槻聖マリヤ教会の方々、代祷で私のことを覚えてくださった大阪教区の教会の方々、祈りに加えてくださった方々すべてに、心から感謝いたします。

どうぞこれからも応援とお祈りを願います。

(高槻聖マリヤ教会 執事)



大倉有紀 執事按手式

祝会メッセージ

ベネディクト 丹羽 正廣

執事ご就任を心からお喜び申し上げます。

特にうれしいのは、大倉執事から陪餐を受けることが出来ることです。

そしてご家族4人の素敵なファミリーがマリヤ教会のメンバーとなっていたいたことを大変喜んでおります。

大倉執事は桃山学院の先生を務め、子どもさんを保育園に自転車で送り迎えされ、ご家族を守り、マリヤ教会での礼拝を守り、大阪教区の広報担当もされる スーパーウーキングママ です!!

さて、マリヤ教会にはいろいろな特技や技能をもった個性豊かな家族が集結しております。手話の達人、オルガンやピアノの先生、歌声が素敵で、茶道の先生、華道の免許保持者、料理、習字、刺繍が上手な人、電卓を叩くより暗算が得意な会計さん、フィットネスのインストラクター、イラストがプロ級の人、看護師さん。マリヤ工務店という

大工さんの集団。

そして今回新たに、国家試験の合格率5%という狭い門を通じて、社会保険労務士の資格を持つておられる大倉さんのご主人 ルキウス大倉教晃さんが私たちのファミリーに加わっていただきました。ヤコブ義平雅夫司祭をトップに、守口聖オーガスティン教会の方々も含めて、大ファミリーに包まれたところへ大倉ファミリーが赴任されました。大きな家族全員であなただの家族を歓迎しています。

日本の古い言葉に「青色青光 黄色黄光」というのがあります。

異なる多くの色が集まると、「美しい虹色になる」という意味です。

目に見えない大きな力に導かれ、今ここに大倉執事の人生があるのです。思いっきり生きてください！交わりを分かち合い、喜びを分かち合い、豊かさを分かち合う。そんな教会を目指して、一步一步共に歩んで行きましょう。

このたびは誠におめでとうございます！

(執事推薦者

高槻聖マリヤ教会信徒)

執事按手前のリトリート報告

司祭 ヤコブ 義平 雅夫

9月8日(月)～9日(火)にかけて、守口聖オーガスティン教会を会場に、ステラ・ミシェル大倉有紀聖職候補生の執事按手のためのリトリートが行われ、教役者と聖職養成

委員、教会信徒を含め、8日は14人、9日は15人の参加がありました。

第1日目には、千松清美司祭と齋藤壹司祭、第2日目には、古澤秀利司祭とヒュー

日本聖公会婦人会 任命式

日本聖公会婦人会 役員任命式を終えて

エステル 加納 佳世子

あなたは岸辺で 力のないわたしに しがえと 招かれる イエスはわたしを見つめ わたしの名を呼ばれる 小舟をおりて あなたとともに歩みだそう (聖歌509番)

9月10日川口基督教会に於いて、ダビデ上原榮正首座主教の司式により役員任命式が行われました。ご準備頂いた皆さま、ご参列頂いた皆さま有難うございました。

6月に横浜で開催された日本聖公会婦人会総会において、大阪教区が会長選出教区に選

ばれました。そのことを聞いた時は、「会長さんになる方大変だわ」と他人事でした。まさか私にその役が与えられるとは、全く考えてもいませんでした。

任命式で歌った聖歌の歌詞のように何もできない小さなわたしを神様は招かれました。昨年ブラジルの玉置幸子執事から、定年退職後の働きについて「神様にご計画がありなお私を用いてくださるなら喜んでさせていただきます。たとえ私に出来ないことであつてもできる人を与えて下

ムユーン司祭がそれぞれ黙想指導をされ、ご自身の執事按手を受けた時の思いやそれからの聖職としての歩み、また教会に通い始めた経緯や召命感、子育てしながら聖職志願することの大変さへの共感、牧会の実際などが語られ、大倉聖職候補生だけでなく、参加した司祭たちも自分自身の歩みについて振り返ること

さるので心配はいりません。全て主のみ心のままになされますように。」とおっしゃっておられました。その言葉どおり、大阪、京都、中部教区から祈りのうちに、とても頼りになる方々が呼び集められました。感謝です。

教区を越えての役員会の働きのために、お祈りとお支えをよろしく願います。

大阪教区が会長教区に決まった時、小林主教さまはワクワクすると皆さまの前でお話されたそうです。3年間の役目を終えた時に、ワクワクして楽しい時間だったと思えるように努めていきたいと思っています。

(大阪聖アンデレ教会信徒)

のできる豊かな恵みの時となりました。

2日目の最後の聖餐式をもってリトリートは終了し、大倉聖職候補生は9月13日に按手式を迎え、大阪教区に新しい執事が誕生しました。

(聖職養成委員長・高槻聖マリヤ教会管理牧師・守口聖オーガスティン教会牧師)



大阪教区礼拝・音楽委員会主催
子どものための音楽ワークショップ

「パイプオルガンを体験しよう！」

マリヤ 槻本 愛

7月27日(日)、川口基督教会にて、子どものための音楽ワークショップ「パイプオルガンを体験しよう！」を開催いたしました。連日の猛暑にもかかわらず、小学生から高校生までの3人が体験希望で参加され、保護者など15人が聴講してくださいました。

今回のワークショップでは、川口基督教会のオルガニストである辻彩乃さんが講師となり、クイズ形式でパイプオルガンの音が出る仕組みを楽しく教えてくださいました。参加者たちは興味津々で、パイプオルガンの奥深さに触れていました。その後は、実際に

パイプオルガンに触れる体験です。音色を選ぶ「ストップ」を操作したり、手鍵盤だけでなく足鍵盤も使って音を出したりと、貴重な体験ができました。特に足鍵盤を使った時の、身体に響くような迫力ある音には、参加者だけでなく保護者の方々も驚かれています。デイズニーマのメドレーやバッハの荘厳な曲のデモ演奏もしてください、普段の礼拝では聴くことのない曲目に、私も引き込まれました。最初は少し緊張していた参

加者たちも、実際に音を出すうちにどんどん夢中になっていく様子が印象的でした。目を輝かせながらパイプオルガンを演奏する姿を見て、将来、彼らが礼拝で奏楽してくれる日が来ることを心から願わずにはいられません。今回のワークショップは、パイプオルガンの魅力に触れる良いきっかけとなったに違いありません。

(礼拝・音楽委員会委員、大阪聖三教会オルガニスト)



広島平和礼拝に参加して

プリスカ 寺内 由紀美



私の背中を押したのは、参院選の街頭演説で「核兵器こそが最もリーズナブルで有効な手段」と声高に論じるニュースを観たことでした。戦後80年という年でもあります。私の思いは既に現代の風潮とは合わないところにあるのかと寂しい思いに駆られました。

8月5日の広島平和記念公園は、夏の暑さにも増して、活気のある様相で、多くの人々が行き交い、多数のブースが立ち上げられ、活動拠点となっていました。前回訪れた時の閑静な様子とは打って変わり、老若男女各々の思いを持って活動している状況に反戦への心強さを肌で感じました。

午後には、広島復活教会で近藤紘子さんの原爆体験の証しを聞きました。1歳にも満たない幼子の時、母に護られる中で浴びた閃光が、その後の人生を大きく変え研究対象として生かされた使命を負って、今尚、広島のみならず、世界中の核兵器廃絶に貢献している方の証言は、とても勇気がもらえるものでした。

8月6日平和礼拝当日は、朝8時からの礼拝に広島復活教会に集いました。その時刻8時15分には広島中の鐘が一斉に鳴らされます。礼拝中黙想してその時を待ちます。礼拝堂の中にいる私たちは、もちろん堂内に響きわたる鐘の音しか聴こえようもないのですが、街中の鐘が響くその振

動を体中に感じる事ができました。同時に、80年前のこの時、閃光に消えた人々、一瞬で人生を変えられた人々、焼けただれた母の顔を忘れ得なかった人々など、わたしの薄知の中の数少ない人の証言が甦ってきました。

(芦屋聖マルコ教会信徒)



「三」二体 いのち 彩る祈り」改正祈書への招き

『神学の声』第52巻より 祈書改正の道・現在

司祭 フランチェスコ 成岡 宏晃

今回は、聖公会神学院から発行されている『神学の声』第52巻に掲載されている「祈書改正の現在（2025年6月時点）」というレポートをご紹介します。

本稿は、祈書改正委員会委員長を担っておられる北海道教区笹森田鶴主教と実務担当者（市原信太郎司祭が、これまでの歩みと改正作業の現状を丁寧にまとめくださったレポートです。

前回紹介させていただきましした改正祈書試用版が、多くの方に試用していただいており、たくさんの方のフィードバックが寄せられている現状です。多くの方がご関心を寄せ、ともに歩んでくださっていることに、改めて感謝を申し上げます。

その中にはもちろん、「なぜ、このような改正がなされているのか」といったような問いかけも含まれています。

改正祈書

にご関心を寄せてくださっているみなさまには、こちらのQRコードを読み取って



いただき「なぜ、祈書の改正が必要なのか」、「どのような理念に基づいて改正作業が進められているのか」などを、ぜひ一読いただけたら幸いです。

また、ご負担をおかけいたしますがQRコードの読み込みが困難な環境にある方のために、ダウンロード・印刷をしていただき、お近くの方とも共有していただけたら、これ以上の喜びはありません。一人でも多くの方とともに、聖公会の信仰生活の「心臓」である祈書改正の働きを担ってまいりたいと願っています。

(管区祈書改正委員)

連載 杖一つ

「教務所」の皆さんに育ててもらいました。

サムエル 本間 欽吾

私は「教務所」（ウイリアムス神学館）で2歳から小学3年まで暮らした。

1945（S20）年3月4日に川崎市で生まれる。3月10日、東京大空襲。強制疎開。丸裸となった家族は京都下鴨の実家へ身を寄せ、ほんの少し穏やかな日々が与えられた。しかし、戦争で負傷していた父は体調を崩し、診断結果は結核。会社も退職。1947年1月に右京区鳴滝の宇多野療養所へ入院。同時期に東京在住の伯父家族が実家へ戻ることとなり、私たちは住まいを探さないと。母は夫の見舞い、私の世話、手に職もなし。その日その日を何とか暮らしていた。そんな時、偶然出会ったのが平安女学院で英語教師でもあった恩師の女性宣教師ミス・ウイリアムス。「今、どうしてますか？」と問われ、現状を伝えた。「すぐに私のところへ来なさい。小さいが部屋があるから」。ウ

先生*はウイリアムス神学館のニコルス館2階に住んでおられた。母は私を保育園へ預け、つたない英語でウ先生の身の回りの世話をしていた父が始まった。入院していた父は1948年末に32歳で天へ召された。母28歳、私3歳であった。「何もかもみな失いしわれの手には、えみ忘れぬ 吾子のみ残れり」当時「教務所」と呼ばれていた敷地には、左手の日本家屋の大きな主教邸に佐々木二郎主教学家族が住んでおられた。正面の庭の向こうには立派な玄関のレンガ二階建て教務所（教務所・主教室・礼拝堂・教室）。右手に現在の主教邸、ニコルス館。ニコルス館前に大きな桜木や庭、裏にフジ棚もあり絶好の遊び場。主教ご家族・親族、多くの聖職者・アグネス教会信徒の方々は私たち親子を温かく見守ってくださいました。1948年佐々木主教がウイリアムス神学館の前身「ウ

イリアムス聖書学校」開校。最初の入学生は、大庭祥子さん（法用渉主と結婚し今も交流あり）。以降、神学生が次々と入学された。アグネス教会の日曜学校は広い礼拝堂の最前列に数名の子どもたち。礼拝後は平女の教室へ移動して聖書のお話。夏はお泊り会もあった。遊んだことしか記憶にない。中学2年から京都聖マリア教会、就職して高槻聖マリア教会。そして今に至る。神さんて、いてるんやろか？と思いつつ教会へ足を運んでいるこの不思議です。

*ウイリアムス主教学の縁戚ではない。ミス・スカイルスと共に松ヶ崎に山の家、幼稚園設立に関わり、戦後の聖光教会設立へとつながる。（高槻聖マリア教会信徒）

大阪教区教役者、信徒の皆様へ

大阪教区合同埋葬式のご案内

日時：2025年11月1日（土）14時より

場所：大阪霊園

大東市龍間331

TEL 0120-69-1117

※お問い合わせは大阪教区事務所まで
教区墓地担当 総務局長司祭 金山 将司

応答のリズムと「ふるさと」

―夏の黙想会を終えて―

カタリナ 野上千春 のがみ ちはる

2025年8月11日（月祝）、

「夏の黙想会」が西宮聖ペテロ教会で行われ、初めて参加しました。緑に囲まれた静かな佇まいと昨夜の雨に潤う景色に迎えられる、心も洗われるようです。

内田司祭様より冒頭「啐啄そったくの機」という、雛が殻を破ろうとする内側の動きと、親鳥の助けの呼応を示す言葉を学び、人と神様との関係も同じく応答のリズムとタイミングが大切だと知りました。「むすんでひらいて」の童謡も聖餐式を表す例として紹介され、身近なたとえに新鮮な驚きを覚えました。礼拝は態度や所作にも神様との呼応が表れること、情性になつていないか自らを振り返る必要も感じました。午後は祈禱書を用いて「カタバシス」（神から人へ）と「アナバシス」（人から神へ）に分類。感謝聖別の祈りは賛美・感謝・願いへと続き、その際、個人的祈りに留まらないよう注意が必要だと改めて教わりました。普段自分のことや家族の祈りに終始している自分が恥ずかしくなり耳の痛いところで

した。

本日、最後に行われた聖餐式では3曲共に「ふるさと」という言葉を含む聖歌を選んでいたと司祭さまが説明されました。2日後に祖母の初盆で長崎へ帰省予定の私は、思わず顔を挙げました。両親を早くに亡くし、昨年祖母も亡くなりました。63歳にして「おばあちゃんロス」に陥っている心に「何も寂しがることはない」と神様に慰められた気がしました。「地上の喜びや悲しみは移ろいますが、天には本当のふるさとはある。」これからも長崎を心の拠り所とし、天の故郷を目指して歩みたいと思います。この学びにより祈禱書の理解も深まり、次の聖餐式では応答のリズムを大切に臨みたいと思いました。

本日の出席者は22人。献金が1万9250円。ミャンマー聖公会にお献げします。ご準備くださった聖職養成委員会の皆さま、会場を提供くださった西宮聖ペテロ教会の方々に心より感謝します。

（川口基督教会信徒）

「第35回国際ワークキャンプ（インドネシア）」に参加して

司祭 ヒュームウィリアムユーワン



2025年8月20日～31日に桃山学院大学の第35回目の国際ワークキャンプ（IWC）が実施されました。コロナ禍から2回目となり、大学生17人及び引率3人がインドネシアのバリ島に行きました。それから、バリ島のディアナ・プラ大学の学生6人が参加しました。

国際ワークキャンプの目的は主に奉仕することですが、「アジアの人々の協働から学ぶ」と

いう句をきいて、IWCの精神を説明できると思います。私たちの奉仕は西バリ島にあるプリンビンサリ村で行われ、そこはバリ島唯一のクリスチャン村です。

プリンビンサリ村の中にGKPB（バリ島においてのプロテスタント教会）と関係があるヴィディア・アシ財団が運営しているアスラマ（子供たちの施設）があり、私たちの奉仕はそのアスラマに主に行われました。アスラマでは約60人の子供たちが入所していますし、その子供たちの年齢は小学生ぐらいの年齢で、主にバリ島の出身です。

私たちが着いた時に、歓迎会を開いて下さり、村の長とプリンビンサリの教会の牧師や地域の警察長と軍隊長などが出席されました。子供たちは伝統的な踊りを踊ってくれました。アスラマでは私たちは子供たちと遊んだり、石の壁を作ったりしました。そして、日本の文化を紹介するために、プリンビンサリ村の中のクリスチャン小学校及び隣の村のヒンドゥー中学校

を訪問し、子供たちは習字や折り紙をしたり、剣玉や福笑いをして遊んだりしました。更に、ヴィディア・アシ財団が運営している中学生の年齢の子供たちの施設を訪問することができました。

ある晩は、私たちは子供たち及び私たちが泊まったホームステイ先のご家族のために日本風の食事会を開き、日本のカレーを作りました。子供たちは大喜びしていましたし、何回もお代わりをしました。そして、主日の礼拝はとても綺麗な伝統的な教会で行われ、礼拝中に私たちは讃美歌を歌いました。会衆の皆さんは私たちを温かく歓迎して下さいました。また、送別会の時に私たちは踊りを踊りましたし、子供たちにお土産をあげました。

最後に、帰国する前に、デンプサルにある日本領事館を訪問し、そしてGKPBの本部で今年のIWCについて報告会がありました。

プリンビンサリ村の環境はとても良く、リゾート地と言え

る場所にもかかわらず、子供たちがアスラマに入所した理由は家族の貧困です。プリンビンサリ村は本当にクリスチャンの共同体で、村の人々はアスラマの子供たちを応援しています。アスラマの子供たちはそのような環境でも健康で、体力がありますし、全員が小学校に元気に通っています。

(桃山学院大学チャプレン、堺聖テモテ教会牧師、聖ルカ教会管理牧師、東光学園チャプレン)

【常置委員会報告】

7/30
第9回
(定例)

1. 主教報告・諮問

○主教予定・報告・宣教方針等の説明を受けた。

○事業委員会の立ち上げについて説明を受け承認した。

○聖職候補生・教区神学生の学びや勤務の状況について報告があり協議した。

2. 諸報告および議事

○各局（委員会・団体）から報告を受けた。

○執事按手式について、信施先を「大阪聖三一教会」と

すること、また記念撮影を業者に委託することを了承した。

○教区火災保険の保険料更新について了承した。

○日本聖公会婦人会の次期チャプレンとして義平司祭に任命した。

○柳司祭より大宗連常任委員会についての報告があった。

○財務委員会より6月の会計報告を受け承認した。

以上

8/2
第10回
(臨時)

1. 主教諮問

○主教より人事に関する諮問があり意見交換した。

以上

8/21
第11回
(定例)

1. 主教報告・諮問

○主教予定・報告・宣教方針等の説明を受けた。

○教区の将来像について意見交換した。

○柳司祭の休暇について承認の報告があった。

○教役者および教区関係者の健康面についての報告があった。

2. 諸報告および議事

○各局（委員会・団体）から報告を受けた。

○大阪教区が日本聖公会婦人会の会長教区となったむね報告があった。役員は以下の通り。会長…加納佳世子（聖アンデレ）、副会長…山本久美（聖愛）、書記…長井登茂子（名古屋聖マタイ）、長谷川由季（名古屋聖マタイ）、会計…高垣茂美（聖光）、前田伸子（大津聖マリヤ）。なお、上原首座主教による役員任命式を9月10日15時より、川口基督教会において行うこととなった。

○管区人権セミナーへの薦田聖職候補生の派遣を承認。

○中部教区宣教150周年記念礼拝への小野田富美子さん（聖アンデレ）の派遣を承認。

○執事按手式準備委員会からの報告を受け了承した。

○財務委員会より7月の会計報告を受け承認した。

○教区事務所職員の退職金について承認した。

○原田光雄司祭の記念会が10月27日17時より、KCC会館にて行われる旨報告があった。以上

9/11
第12回
(定例)

1. 主教報告・諮問

○主教予定・報告・宣教方針等の説明を受けた。ことに、教区礼拝で「改正祈禱書」を用いる件、教会合併に関する基本的考え方、教区財政健全化について、聖職志願の方法と課題、事業委員会委員の委嘱に関する件、教役者の健康状況などについて共有した。

○主教から諮問のあった「教役者人事」「事業委員会」「神学生と聖職の養成」等の事柄について協議した。

2. 諸報告および議事

○各局および日聖婦、連合男子会の報告を受けた。

○「大韓聖公会オモニ連合会100周年記念礼拝」に日聖婦代表者と古澤恵以子さんを派遣し、加えて「韓国GFS 60周年、世界100周年記念会」日本GFS林直子会長および柳司祭（韓国GFS元チャプレン）が出席する旨が報告された。

○定期教区会について9月16日公示を決定した。

○大宗連からの要望と案内について報告があった。

○8月度の教区会計報告を承認した。以上

【局長会議報告】

8/19
第9回

・火災保険の契約更新をした。

・10月19日ミャンマー地震災害のための指定献金。

・教区礼拝の打合せを進めている。式典長義平司祭、副式典長永野司祭。

・戦後80年の講演会 井田司祭 10月25日にする。

・大阪教区宣教協議会開催について話し合われた。

・7月度決算報告を共有した。

・会計委員懇談会開催…9月27日 14:00～16:00 教区館

・財政担当者連絡協議会開催…11月28、29日（ナザレの家）2名参加要請

9/12
第10回

・代表者変更手続きを進めている。（銀行名義、大阪霊園、納骨堂許可など）

・事務所のデータのクラウド化を継続して進行している。・教区礼拝の内容と今後の動

大阪教区関係教役者レクイエム

毎月第2水曜日 川口基督教会

11月12日 (水) 10:30~

説教者：小林 聡 主教

- 1日 司 祭 ジェームズ・ウイリアムズ (1920英)
3日 司 祭 パウロ 山本 早太 (1988)
4日 司 祭 ヨハネ 張本 栄 (張準相) (1966韓)
宣教師 コンスタンス・メアリー・リチャードソン (1968英)
5日 司 祭 パウロ 後藤 光敏 (1971)
司 祭 イザヤ 浦地 洪一 (2021)
9日 司 祭 ヨハネ 有近 康男 (1991)
11日 司 祭 ヨハネ 伴 君保 (1956)
12日 宣教師 レイチェル・ドーラ・ハワード (1947英)
15日 司 祭 ヨシュア 原田 光雄 (2024)
17日 宣教師 ガートルード・E・コックス (1906英)
19日 司 祭 ヨハネ 側垣 正巳 (1997)
20日 司 祭 ホレイス・ジョージ・ワレン (1950英)
司 祭 ペテロ 松山 龍二 (2024)
21日 主 教 ホレイス・H・プライス (1941英)
22日 司 祭 ベルナルド 小穴 藤雄 (1971)
23日 司 祭 北川 千代吉 (1939)
27日 司 祭 サムエル 坪井 克巳 (2024)
30日 宣教師 アミー・キャロライン・ボサンケット (1950英)
?日 宣教師 アンナ・マリア・タブソン (1940英)

12月10日 (水) 10:30~

説教者：内田 望 司祭

- 1日 宣教師 エデイス・イライザ・ソープ (1930英)
2日 主 教 チャニング・ムーア・ウイリアムズ (1910米)
4日 司 祭 テモテ 山本 登 (2009)
13日 司 祭 ジョン・キャリー・アンブラー (1946米)
16日 司 祭 尾形 虎三 (1945)
17日 司 祭 アーサー・ラザフォード・モリス (1912米)
宣教師 エミリー・ビショップ・ボウルトン (1926英)
18日 宣教師 ジェーン・キャスパリ (1888英)
19日 司 祭 ダニエル 小池 慶二 (2014)
22日 伝道師 清田 海一郎 (1904)
司 祭 近重 利澄 (1934)
27日 司 祭 ヘンリー・レナード・プレビー (1942英)
28日 伝道師 大塚 惟明 (1928)
29日 司 祭 マルコ 伊崎 八束 (1978)
30日 宣教師 オードリー・M・ヘンティー (1970英)

きの確認をした。チラシは10月中旬に発行する予定。
・2026年3月14日 (土) イ・コニョンさん演奏会 (川口基督教会) に関して、広報面、予算面などを含めて常置委員会に諮る。
・奏楽者ネットワーク (奏楽者の足りない教会の支援) を作ることを検討中。
・大阪教区公式LINE有料プランの設置について、予算案が提示され、局長会は承認した。
・大阪教区宣教協議会開催に

川口基督教会

洗 礼

ルシヤ
モニカ
横田 狩保 (9月21日)
賀子 多介子



石橋聖トマス教会
マタイ 福崎 精造 (8月8日・88歳)
東豊中ミカエル教会
マリヤ 大中 敏子 (9月19日・81歳)
芦屋聖マルコ教会
リベカ 池田 さよ (8月19日・80歳)

逝 去 者

8頁
大阪城南キリスト教会
マリヤ 井手 吉志子 (4月13日)
↓ 逝去者欄へ
8頁
大阪聖愛教会
誤 エリヤ (6月29日)
↓ 正 エリヤ 松村 岳仁 松村 岳仁 松村 岳仁

お詫びして訂正いたします

お詫びと訂正 (526号)

2025年 日本聖公会 大阪教区礼拝

感謝聖餐式 (改正祈祷書による)

「目を覚ましていなさい」 マタイ24:36~44

~戦後80年を覚えて~

司式・説教 バルナバ 小林 聡 主教
日 時 11月30日 (日) 午前11時
場 所 プール学院 清心館
大阪市生野区勝山北1-19-31